

電子ジャーナル

会誌編集部

電子ジャーナルにはわからないことが多い。それほど経験のない図書館員にとって目にする専門用語らしき横文字やカタカナはわからない語ばかりである。また実際に電子ジャーナルへ移行するとなると、ハード面でも大きな変更が要求されけこう大きな事業となるし、なにより資料管理という点では図書館の根幹にかかわる変化がおることになる。しかし先進的な医学図書館はどんどん電子ジャーナルへと移行していき、電子ジャーナルについて気にしている図書館員も多いと思う。今回は電子ジャーナルにスポットを当てる。以下文中に出てくるいくつかの語には、理解に役立つ文献を示したので、併せてそれらを参照していただければ幸いである。

I. 利用形態

電子ジャーナルを料金体系別に整理すると以下のようになる。

電子ジャーナルの料金体系

1. 完全に無料で提供されているもの
2. 冊子体を購読していれば、無料で同タイトルの電子ジャーナルも利用できるもの
3. 電子ジャーナルの購読に料金が必要なもの

1. 完全に無料で提供されているもの

学術情報の円滑な流通を促進しようと、相当な数の電子ジャーナルが無料で見ることができる（刊行後一定期間は利用できないものもある）。BioMed Central や HighWire Press などが有名である。契約していないタイトルの動態を把握することは難しいので、無料で読める世界中の電子ジャーナルを集めた情報サイトである Free Medical Journals を活用したい。日本語でも、J-STAGE がある。

2. 冊子体を購読していれば、無料で同タイトルの電子ジャーナルも利用できるもの

自館で購読しているタイトルのうち、どれが無料で電子ジャーナルも利用できるのかは、業者に聞けば教えてくれる。ただしこれらを利用するには登録する必要がある¹⁾、作業もなかなか大変である。

3. 電子ジャーナルの購読に料金が必要なもの

冊子体を購読していたら追加料金だけで済むものもあれば、完全に別料金が必要なものもある。冊子体と同じように、1タイトルごとに電子ジャーナルを購入することが可能で、こうして電子ジャーナルを購入している図書館も実際は多い。一方、電子ジャーナルをパッケージで購入することもできる。お徳用セットのようなもので、タイトル単価としてはより安い金額で購入でき、タイトル数を増やすことができる。しかし価格そのものが高価なので、日本医学図書館協会や日本薬学図書館協議会など、コンソーシアム²⁾で共同購入することにより安く購入されることが多いようである。病院版のように病院を対象にした廉価版もある。

電子ジャーナルのパッケージは2タイプに分けられる。一つは出版社型で、一つはアグリゲー

ター型である。出版社型は一つの出版社から出ているタイトルをセットで購入するもので、雑誌の多くは少数の大きな出版社から出ているので、それなりに網羅性はあるといえる。例としては ScienceDirect³⁾ (エルゼビア・ジャパン) や SpringerLINK (シュプリンガー・ジャパン) がある。

アグリゲーター型とは、複数の出版社のジャーナルを一つのポータルサイトで利用できるようにしているもので、aggregate とは「集める」という意味である。検索データベースと統合されて、データベースの検索結果からフルテキストを表示できるものも多い。多くのタイトルのジャーナルをそろえることができるが、出版社の商品より画質が劣ったり収録までのタイムラグがあったりする。利用できるジャーナルのタイトルは、アグリゲーターと出版社の契約により決められるので、今年使っても来年使える保証もない。例としては ProQuest⁴⁾ (ProQuest CSA) や EBSCOhost (EBSCO) などがある。

価格的な折り合いもあり、冊子体をとらなくなっている図書館が多くなっているようである。これにはバックナンバーに対する不安⁵⁾ が以前より解消されてきている事実もある。選択肢が多岐に渡るので、さまざまな情報を集めて、決めていくしかない。

II. インターフェース

電子ジャーナルの選定に劣らず重要だと考えられるのが、インターフェースである。

電子ジャーナルが利用できるようになったとして、それらを利用者が快適に利用できるようにするため、図書館の側で努力をしなければならない。一般的には図書館のホームページに電子ジャーナル一覧を載せたり、雑誌のポータルサイト⁶⁾ を設けて購読雑誌のタイトルリストに電子ジャーナルへリンクを張ったりする。しかし ID・Password の管理も大変であるし、利用動向を把握するためにアクセスログを確認する必要もある。それで電子ジャーナル管理システム⁷⁾ を利用している図書館も少なくない。主な電子ジャーナル管理システムには E-Journal A.M.S (Serials Solutions)、OJMS (ハザン商会)、A-to-Z (EBSCO) などがある。さらにリンクリゾルバ⁸⁾ という電子ジャーナル (の文献) を OPAC や未所蔵資料の ILL 依頼まで結ぶことのできるツールを利用しているところもある。製品としては SFX (Ex Libris) や 360 Link (Serials Solutions) がある。PubMed の検索結果と自館で見ることのできる電子ジャーナルをリンクさせる PubMed の LinkOut⁹⁾ も非常に有効で、病院図書館員の手で設定することができる。

文中の語の理解を助ける文献

1) 無料電子ジャーナルの登録

山田有希子、菊地元子、川上摩記他：無料電子ジャーナルの登録方法。ほすびたる らいぶらりあん。2006 ; 31 (3) : 185-91.

2) コンソーシアム

母良田功：電子ジャーナル・コンソーシアムの取り組み。薬学図書館。2004 ; 49 (2) : 141-5.

3) ScienceDirect

橋田圭介：サイエンス・ダイレクト病院版。ほすびたる らいぶらりあん。2006 ; 31 (4) : 263-7.

4) ProQuest

衣笠美穂：インターネットからの一次情報へのアクセス・全文データベース ProQuest の新しい機能とデータベースの紹介。病院図書館2002 ; 22 (2) : 48-52.

5) バックナンバーに対する不安

岩崎治郎：電子ジャーナルのアーカイバルアクセスをめぐる現状と今後の方向. 日赤図書館雑誌. 2006 ; 13 (1) : 13-8.

6) ポータルサイト

泉浩三：学内向け雑誌ポータルサイトの構築. 薬学図書館. 2004 ; 49 (1) : 9-13.

7) 電子ジャーナル管理システム

児玉関：電子ジャーナル・マネジメントツールの現状. 薬学図書館. 2006 ; 51 (2) : 110-8.

8) リンクリゾルバ

片岡真：リンクリゾルバに見る Web 時代の図書館サービス きゅうと LinQ の評価と展望. 薬学図書館. 2006 ; 51 (4) : 299-306.

9) PubMed の LinkOut

諏訪部直子：PubMed を使いこなす LinkOut と My NCBI の紹介. ほすびたるらいぶらりあん. 2006 ; 31 (4) : 255-9.

参考文献

1) 児玉関：電子ジャーナルの効果的サービスのために. 病院図書館. 2003 ; 23 (3) : 117-21.

2) 及川はるみ：病院図書館における電子ジャーナルへの移行. 日赤図書館雑誌. 2006 ; 13 : 8-12.

3) 二宮敦. 図書館員のための電子ジャーナル登録マニュアル. [引用 2007-07-26].

<http://onlinejournal.fc2web.com/index.html>

(文責：増田 徹／藍野大学中央図書館)